

1 題材について

対 象 学 年	小学校 第6学年
学 習 指 導 要 領	第5学年及び第6学年の内容 A表現(2) ア、イ B鑑賞
題 材 名	「未来に生きるわたし」（全9時間）
題 材 目 標	<p>将来の自分の姿を想定し、自分の思いに合わせて適切な材料や表現方法を選んで工夫したり、新たな表現を試みたりする。</p> <p style="text-align: right;">【造形への関心・意欲・態度】</p> <p>自分が活躍している場面を想像し、場所の様子やそこにあるものなどを、工夫しながら構成し、自分らしい表現を構想する。</p> <p style="text-align: right;">【発想や構想の能力】</p> <p>自分の想像した雰囲気が出るようにリアリティーを高めたり深めたりする材料や用具・表現方法を工夫する。 【創造的な技能】</p> <p>作品を見せ合いながら、お互いの表現や工夫を見合ったり、将来の自分の姿について夢を広げ、仲間と話し合う。 【鑑賞の能力】</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 題材指導計画作成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる空想画としての二次元的な表現にとどまらず、立体化することで表現の多様性と広がりをもたらす。 ・4観点から、本題材の基礎的・基本的な内容を具体化し、単位時間における指導内容を明確にする。特に児童個々のリアリティーを追求するための時間を保障し、支援を行う。 <p>単位時間における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来の夢や願望を表すことは、総合的な時間にもつながるものであり、自分のテーマに合わせて、図書館で本を見たり、インターネットで検索したり、町の施設を訪ねたりする中から学ばせる機会をもたせる。 ・「こんな感じだけど何か違う」という不明確な状態から、試行錯誤を繰り返しながらたどりつく喜びを味わわせるために、材料や技法を選定するための適切な支援を行う。 ・自分が活躍する場面の動作を想定し、リアリティーを追求するために動きや色の効果が工夫できるようにアルミ線や粘土、絵の具などの基本的な扱い方が理解できるようにする。 ・ねらいから見た児童の課題を作品や観察などから把握し、評価規準をもとに個に応じた指導・援助ができるようにする。
参 考 資 料	<p>鑑賞資料：粘土による参考作品</p> <p>指導資料：技法の選定資料</p>

2 題材の評価規準

	a 造形への関心・意欲・態度	b 発想や構想の能力	c 創造的な技能	d 鑑賞の能力
内容の ごまとの ま評 り価 規 準	<p>【表現】 表したいことを表すために、美しさを感じ取ったりしながら、自分の表し方で表現したり新たな表現方法を試みたりするなど、表現方法の楽しさを味わおうとする。</p> <p>【鑑賞】 自分たちが作り出した作品や暮らしの中の造形作品、親しみのある美術などに関心を持ち、その美しさや表し方のよさ、表し方の変化の面白さなどを味わおうとする。</p>	<p>表したいことを見つけ、形や色、材料の特徴や構成の美しさの感じ、つくるものの用途などを考え、主題の表し方を構想しデザインの能力などを働かせ、自分が選んだ材料や用具の特徴を生かして、表し方を考える。</p>	<p>表したいことに合わせて、材料や構成の美しさなどの感じや用途を考え、造形感覚や創造的な工作の技能を働かせ、前学年までに経験した用具などを生かし、表現に適した方法を組み合わせ、表し方を工夫する。</p>	<p>造形作品などを、自分らしい見方や感じ方で能動的に鑑賞しよさや美しさなどに親しむ。</p>
題材に おけ る評 価 規 準	<p>【表現】 将来の自分の姿を想定し、自分の思いに合わせて適切な材料や表現方法を選んで工夫したり、新たな表現を試みたりしようとする。</p> <p>【鑑賞】 仲間の将来の姿について関心を持ち、その動きや色の効果などからリアリティーを高めたり深めたりして作品のよさを味わおうとする。</p>	<p>自分が活躍している場面を想像し、場所の様子やそこにあるものなどを工夫しながら構成し、主題に合った自分らしい表現を構想する。</p>	<p>自分が想像した雰囲気が出るようにリアリティーを高めたり深めたりする材料や用具・表現方法を工夫し、動きや色の効果を考えて表す。</p>	<p>作品を交流しながら、仲間の将来の姿から表現意図を読みとったり、材料や用具・表現方法の工夫の違いを認め合ったりする。</p>
単位 時具 間体 にお 評価 規 準	<p>将来の自分の姿を表現するためにふさわしい材料・用具や表現方法を効果的に組み合わせようとする。 材料や技法の選択や組み合わせなどの工夫に関心を持ち、表現の違いや特徴を感じ取ろうとする。</p>	<p>将来の自分の姿を表現するための場所の設定やそこにあるものをイメージして構想する。 主題を効果的に表現するために動きや配置の効果を考えて構成する。</p>	<p>主題を表現するために粘土の肉付け、削り取り、つまみだし、切り込み、接合、絵の具の混色、重色、ぼかし、にじみなどの技法や用具の特性を効果的に生かす。 身の回りにある素材を効果的に生かしながら、画面や立体の中に取り入れて主題のイメージをふくらませる。</p>	<p>仲間の将来の姿から夢を広げ、想像したことを仲間に話したり、伝えたりすることを通して、表現の面白さを味わう。</p>

3 指導と評価の計画（全9時間）

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	将来の自分について思いをめぐらし、効果的な表現方法を選択して自分の思いを明確にする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 将来の自分の姿を思い描き、表現方法を考える。 </div> 将来の自分の姿を想像し、「制作カード」に書き込む。自分の考えを話したり、仲間の話や教師のアドバイスなどを聞いたりして、より確かなイメージをもつ。参考作品を見て、より効果的な表現方法を選択する。	< a - > 将来の自分の姿を表現するためにふさわしい材料・用具や表現方法を効果的に組み合わせようとする。	制作カード ・将来の自分を具体的なイメージで想像しているか。 ・立体にするか平面にするか表現方法を選択したか。	現実的な姿ばかりでなく、未来を予測して、夢を広げ、想像力豊かに考えるようによびかける。立体、平面などの多様な参考作品を提示し、表現方法を具体的に考える。
2	将来の自分のイメージをより明確にするためにラフスケッチをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 将来の自分の姿のおおまかなイメージをもつ。 </div> 将来の自分の姿の簡単なラフスケッチをする。自分の姿を中心にして、周りの様子がわかるように描く。	< b - > 将来の自分の姿を表現するための場所の設定やそこにあるものをイメージして構想する。	ラフスケッチ ・将来の自分の姿を中心にして場所や周りの様子を具体的にイメージしたか。	近未来のイメージを表す写真や画像で未来の夢をふくらむように配慮する。場所やそこにあるものの具体物についてアドバイスする。
3	ラフスケッチをもとにして、材料用具を選び、動きや配置の効果を考えて構成する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> イメージから材料・用具を選び、構成する。 </div> < 平面表現 > 用紙を選び、自分の姿や場所やそこにあるものをイメージして配置や動きを考えたながら構成し、下書きをする。 < 立体表現 > アルミ線で骨組みをつくり、頭部のバランスや肩幅、関節を意識してポーズをつくる。麻ひもを隙間無く巻くことによって粘土が確実につくようにする。	< b - > 主題を効果的に表現するために動きや配置の効果を考えて構成する。	下書き ・自分の姿や場所や配置や動きを工夫して構成したか。 骨組み ・アルミ線の特徴を生かし、肉付けや場所の設定を意識してポーズを作ったか。	場所やそこにあるものについて現実を超えた空想の世界の広がりをもたせるようなアドバイスをする。 アルミ線は頭部のバランス肩幅・骨盤の幅を意識し、関節を曲げながらポーズをつくる。
4 5	将来の自分の姿を効果的に表現するために材料・用具の基本的な特性を生かして	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 自分の姿を効果的に表現する方法を考えて制作する。 </div> < 平面表現 > 絵の具の基本的な使い方や、混色、重色、ぼかし、にじみなどの色の効果を工夫して、未来に活躍してい	< c - > 主題を表現するために粘土の肉付け、削り取り、つまみだし、切り込み、接	作品 ・主題を効果的に表現するための彩色を工夫したか。（平面） ・肉付け、削り取り、つ	自分の顔の表情や動きが主題を効果的に表現することにつながることをアドバイスする。自分の服装や身につけてい

	制作する。	<p>自分の様子がわかるように彩色する。</p> <p>< 立体表現 > 心材に粘土を肉付けしたり削り取ったりし、さらにつまみだしや、切り込み、接合することによって動きや表情を効果的に表現していく。</p>	<p>合、絵の具の混色、重色、ぼかし、にじみなどの技法や用具の特性を効果的に生かす。</p>	<p>まみだし、切り込み、接合などの技法を効果的に活用しているか。 (立体)</p>	<p>るものを工夫するようにアドバイスする。参考になるものを本などで調べる。</p>
6 7 8	<p>周りの様子を効果的に表現するために、身の回りにある素材を効果的に生かす。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>周りの様子を効果的に表現する方法を考えて制作する。</p> </div> <p>< 平面表現 > 明暗、寒暖、色の対比、グラデーションなど色の効果を工夫して周りの様子を彩色する。 身の回りにある素材を画面に貼り付けて主題を効果的に表現する。</p> <p>< 立体表現 > つくろうとするディテールや材質感を、資料で確認したり実際に見たりしながら、材料や技法を考え、工夫してつくる。 身の回りにある素材を生かしながら、組み合わせを取り入れることにより、主題を効果的に表現する。</p>	<p>< c - > 身の回りにある素材を効果的に生かしながら、画面や立体の中に取り入れて主題のイメージをふくらませる。</p> <p>< a - > 材料や技法の選択や組み合わせなどの工夫に関心を持ち、表現の違いや特徴を感じ取るうとする。</p>	<p>制作態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題を効果的に表現するための色の効果や身の回りにある素材の効果にこだわったか。 <p>作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周りの様子やそこにあるものについてどんな材料や表現方法の工夫をしたか。 	<p>色の効果が現れるような参考作品を提示し、個々の作品に生かす。実物の砂や土、オガクズやそれに着色した物、霧吹きやハンドスプレーなど身の回りにある物で使えるものはないか、などの工夫を促す。 身の回りにあるものを効果的に生かした作品例を示すことにより、自分の作品に生かせそうなことはないか考え、さらに素材の収集をうながす。</p>
9	<p>作品発表をして、互いの作品のよさを鑑賞するとともに将来の夢や願いについて語り合う。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>作品発表をして、そのよさや将来の夢を語り合う。</p> </div> <p>平面、立体どちらの表現もそれぞれよさがあることを認め合う。 それぞれの表現に「リアリティー」をもたせるための工夫があることを見付ける。 将来の自分や仲間の姿が生き生きと表現されている作品を見て、夢を語り合う。</p>	<p>< d - > 仲間の将来の姿から夢を広げ、想像したことを仲間と話したり、伝えたりすることを通して、表現の面白さを味わう。</p>	<p>鑑賞カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や仲間の作品のよさを感じ取り、具体的に工夫を見付けているか。 <p>発言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の夢を仲間と話したり、聞いたりして夢を語り合ったか。 	<p>平面・立体作品のそれぞれによさがあり、イメージをふくらませていることに気づかせる。 リアリティーを出すためのこだわりのある表現を価値付ける。 卒業文集に作品の写真を載せるなど、今後の活動に生かしていく。</p>

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

- ・将来、自分が活躍する姿を生き生きと効果的に表現するために動きや表情、服装を具体的にイメージして、材料・用具の特性を考えながら技法を生かして制作することができる。

(2) 本時の位置

5 / 9時

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
<p>導 入</p> <p>展 開</p> <p>ま と め</p>	<p>将来、自分が活躍する姿を効果的に表現するために大切にしたいことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の自分の姿を生き生きと表現するためには、動きや表情が大切だよ。 ・どんな格好・服装をしているかということも工夫して表現したい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>将来の自分の姿を生き生きと表現するために 動きや表情 服装を工夫しよう。</p> </div> <p>参考作品を鑑賞することで、自分の将来のイメージに見通しをもつ。</p> <p>中心になる自分を描く。(平面)</p> <p>中心になる自分を作る。(立体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活躍している場面の自分の動き、表情、服装を意識しながら描く、作る。 ・絵の具の混色、重色、ぼかし、にじみなどの技法を生かす。 ・粘土のつまみだし、切り込み、接合などの技法を生かす。 <p>本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現の願いを表すために工夫したことを発表する。 ・今後の制作の見通しをもつ。 	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <p>将来の自分の姿をイメージして、動きや表情・服装など表現への願いをもっている。</p> <p>[発言]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の願いを積極的に発表しようとしているか。 <p>【鑑賞の能力】</p> <p>教師の参考作品を見て、動き、表情、服装の工夫を見付けようとする。</p> <p>[発言]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考作品から動き、表情、服装の工夫を見つけようとしているか。 <p>< C - ></p> <p>【創造的な技能】</p> <p>主題を表現するために粘土の肉付け、削り取り、つまみだし、切り込み、接合、絵の具の混色、重色、ぼかし、にじみなどの技法や用具の特性を効果的に生かす。</p> <p>[作品]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品に材料・用具の特性や技法を生かして表現しているか。 <p>A：自分の将来の姿を動き、表情、服装から具体的にイメージし、材料・用具の特性や技法を効果的に生かして試行錯誤しながら制作している。</p> <p>【鑑賞の能力】</p> <p>自他の作品を鑑賞し、願いを表現するために工夫したことを認め合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動き、表情、服装について工夫した点を発表したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の自分の姿を想像して実際にそのポーズをとってみる。 ・どんな表情をしているかをお互いに見合う。 ・どんな服装かを豊かに想像させてみる。 ・努力を要する子には本の写真などを参考にさせる。 ・参考作品の動き、表情、服装という観点を与えて鑑賞する。 ・自分の将来の姿ではどんな動き、表情、服装をしているかを豊かに想像させてみる。 ・どの技法を用いたらよいかという選定資料を準備して、各自の制作の参考にする。 ・平面、立体の表現方法によってグループ別個別に技法を指導援助する。 ・努力を要する子には師範による技法の説明を個別に行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・動き、表情、服装の観点を与えて鑑賞する。 ・技法、用具の特性を生かす工夫を認める。

5 評価の実際と個に応じる指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

< C - >

【創造的な技能】

主題を表現するために粘土の肉付け、削り取り、つまみだし、切り込み、接合、絵の具の混色、重色、ぼかし、にじみなどの技法や用具の特性を効果的に生かす。

(2) 評価の実際

評価の方法

- ・自分が将来活躍する姿を動きや表情、服装の視点から工夫しているかを机間巡視しながら評価する。また、その工夫は主題を効果的に表すためのものであるかを評価する。
- ・粘土の肉付け、削り取り、つまみだし、切り込み、接合、絵の具の混色、重色、にじみ、ぼかしの技法が用いられているかを制作過程の中で評価していく。

【判断の事例】

- ・A児は自分が将来活躍する姿を動きや表情、服装から具体的にイメージしながら、粘土で肉付けし、削り取ったり、つまみだしたり、切り込みを入れたり、接合したりしながら技法や用具の特性を効果的に生かして主題に迫ろうと試行錯誤しながら工夫して制作しているので、Aと判断した。描画についても同様で、自分の将来の姿を動きや表情、服装から具体的にイメージしながら、絵の具を混色、重色したり、ぼかし、にじみなどを入れたりしながら技法や用具の特性を効果的に生かして主題に迫ろうと試行錯誤しながら工夫して制作しているので、十分満足できると判断した。
- ・B児は、自分が将来活躍する姿を動きや表情、服装から具体的にイメージしながら、粘土で肉付けし、削り取ったり、つまみ出したり、切り込みを入れたり、接合したりしながら制作しているので、Bと判断した。描画についても同様で、自分の将来の姿を動きや表情、服装から具体的にイメージしながら、絵の具を混色、重色したり、ぼかし、にじみなどを入れたりしながら制作しているので、おおむね満足できると判断した。
- ・C児は自分の将来の姿を動きや表情、服装から具体的にイメージできない。また、主題に迫るための技法、用具の特性を生かすことができないので、努力を要すると判断した。

(3) 個に応じた指導の実際 (Bに達成しなかった児童生徒に対して)

・つまずきの傾向と指導の意図

自分の将来の姿が動きや表情、服装から具体的にイメージできないのは、思いを形象化することにつまずきがあるととらえる。したがって具体的に形象化する意図をもって指導をすることが必要である。同時に主題に迫るための技法や用具の特性を具体的に示すことも必要である。

・指導の実際

将来の自分の姿を想像して、実際にそのポーズをとらせてみる。どんな表情をしているのかをお互いに見合わせてみるなどの指導を行う。また、本にある写真などを参考にさせることも大切な指導である。主題に迫るための技法については、教師の参考作品をもとにして、どこにどのような技法が使われたかを具体的に模造紙に描いて示す。粘土の肉付け、削り取り、つまみだし、切り込み、接合、絵の具の混色、重色、ぼかし、にじみなどは実際に教師が師範演示することが効果的な指導となる。

・児童生徒の変容

実際にポーズをとらせたり、表情を見合うことにより、どんな動きか、どんな表情かという具体的なイメージができた。また、服装についても本の写真などを参考にすることによって具体的なようになった。用具の特性や技法については、教師の参考作品をもとにして効果的に活用することを理解したが、実際には個別に机間巡視する中でつまずきに応じて具体的に指導することによって技法を理解することができた。